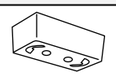
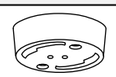
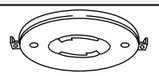
器具を取り付ける前に

●天井にこのような配線部品がついている場合は、ご家庭でも手軽に器具が取り付けられます。


角形引掛シーリングボディ


丸形引掛シーリングボディ

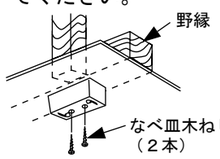

埋込形引掛シーリングローゼット

必ず守る　天井に配線部品が付いていない場合は、電気工事店（有資格者）に取り付け工事を依頼する。（しろうと工事は危険です。また、法律で禁じられています。）

電気工事店（有資格者）のかたへ・・・・　下記 A B での取り付け工事上のご注意

A あらたに角形引掛シーリングボディを取り付ける場合

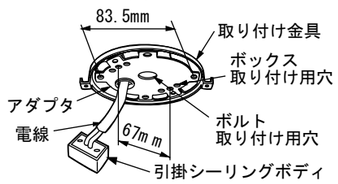
●付属の角形シーリングボディに付いているなべ皿木ねじで天井に取り付けてください。



必ず守る　野縁などの補強材のある所に取り付ける。
＊補強材のないところに取り付けますと、器具の落下によるけがの原因となります。

B ボックス類に取り付ける場合、及びボルトで取り付ける場合

●取り付け金具とアダプタの取り付け穴を使用してください。

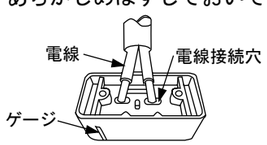


禁止　プラスチック製ボックスには取り付けない。
＊器具の落下によるけがの原因となります。

■付属の角形引掛シーリングボディを取り付ける場合は次の方法で行ってください。

①電線をゲージに合わせて段むきし、電線接続穴にしっかりと差し込んでください。
（なべ皿木ねじは、あらかじめはずしておいてください。）

適用電線
φ1.6または
φ2.0単線



解除のしかた
●⊖ドライバーを電線はずし穴に強く差し込んで、電線を引っ張ってください。

②付属の角形シーリングボディに付いているなべ皿木ねじで天井に取り付けてください。

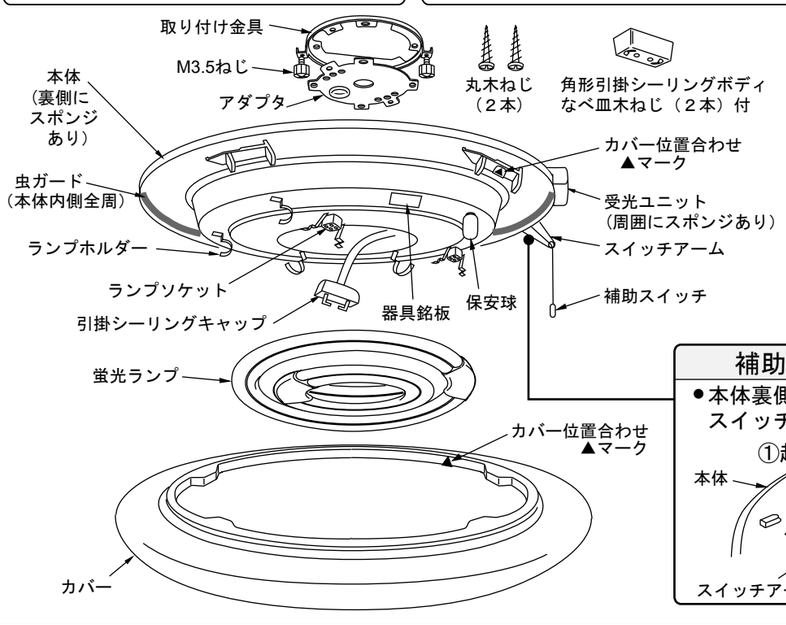
各部の名称

図は取り扱いを説明するために、一部省略抽象化した共通図です。

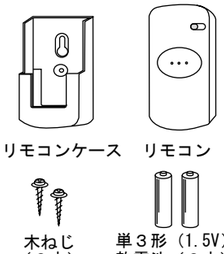
●下図を参照して、各部品をお確かめください。（図は説明の為に、蛍光ランプをはずしています。）

必ず守る　**本体を取り付ける前に・・・**
●蛍光ランプなどを固定しているテープをはがす。

必ず守る　本体裏側および受光ユニット周囲のスポンジや虫ガードを剥がさない。
＊防虫効果を得るために付いています。

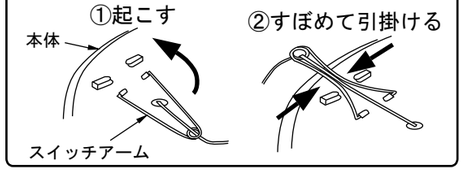


リモコン部品



補助スイッチを使用する場合

●本体裏側にあるスイッチアームを起こし、スイッチ引きひもを引き出してください。

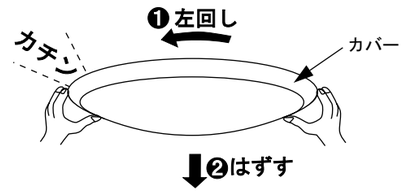


カバーのはずしかたおよびランプの交換方法

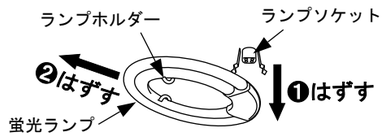
①電源を切ってください。（壁スイッチを OFF にしてください。）

②カバーを押し上げたまま左にカチンと音がするまで回し、取りはずしてください。

③蛍光ランプをランプソケットからはずしたのち、ランプホルダーからはずしてください。

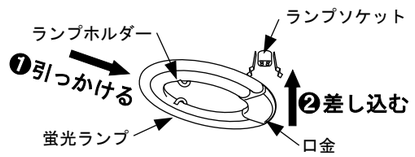


接触禁止　消灯直後の蛍光ランプは熱いので触らない。
＊やけどの原因となります。



④交換用蛍光ランプをランプホルダーに引っかけ、口金をランプソケットに差し込んで取り付けてください。

必ず守る
●ランプソケットの表示に合わせて確実に接続する。（表示は反射板にあります。）
●口金がランプソケットに確実に差し込まれているか押して確認する。
＊接続が不完全な場合、火災の原因となります。



⑤リモコンまたは、壁スイッチで点滅操作をおこない点灯確認してください。
＊蛍光ランプが点灯している状態、または、蛍光ランプが切れて通電されている状態でランプ交換をした場合、交換した蛍光ランプは点灯しませんので必ず点滅操作をおこない点灯確認してください。

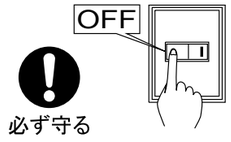
⑥カバーを取り付けてください。（３ページ、３．カバーの取り付け をご参照ください。）

保守とお手入れ

常に明るくご使用いただくために定期的にお手入れをしてください。

■お手入れの際や、蛍光ランプなどの交換の際は、必ず電源を切る。

＊電源を切らないと感電の原因となります。



必ず守る

■器具のお手入れ

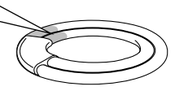
必ず守る
●器具が虫やほこりなどで汚れたら、乾いた柔らかい布で軽くはたき落とす。汚れが落ちない場合は、柔らかい布に石けん水を浸してよくしぼったのちふき取り、乾いた柔らかい布で仕上げる。
木部がある場合は、柔らかい布かはたきでほこりをはらうようにする。
＊石けんとは天然油脂を原料としたものです。
（商品表示が“石けん”であることを確認してください。）

■みがき粉･ベンジン･合成洗剤･化学ぞうきんでふいたり熱湯や殺虫剤をかけない。

禁止　＊割れ、傷、変色および落下によるけがの原因となります。

■蛍光ランプの交換時期について

●口金付近が全周にわたって黒ずみ明るさが低下しましたら寿命ですので、新しい蛍光ランプとお取り替えください。

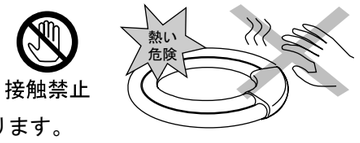


日立ペアルミック70形または100形をお求めください。

●なお、調光で点灯した場合、比較的早い時期に黒い斑点が発生することがありますが、所定のランプ照度や寿命性能は満足しますので、そのままご使用ください。

■蛍光ランプ取り扱い上のご注意

●点灯中および消灯直後は、ランプが熱くなっているので触らない。



接触禁止

＊やけどの原因となります。

●ランプホルダーをランプに強く当てない。

禁止

＊ランプが破損し、けがの原因となります。